

第 32 回社会・経済システム学会大会 [分科会 VI]  
報告「資本主義のリストラクチャリング」

同志社大学 鵜飼孝造

この 10 年余、構造改革が盛んに論じられているが、その基調には「政府から市場・地域へ」という規制緩和や分権化への志向があり、経済活性化、グローバリゼーションへのキャッチアップが（暗黙の）目的として想定されてきた。

しかし、リーマンショックの金融危機、東日本大震災および福島原発事故の事態を受けて、あらためてシステムそのものが生むリスクに対応するリストラクチャリングを構想するべきではないだろうか。

いま考察すべき「社会・経済システム」とは何だろうか。ウォーラーステインは、『近代世界システム』のなかで「唯一の社会システムは世界システムだ」と書いたが、グローバリゼーションが進む現在、国家や企業を単位とするシステム変革を論じても、そのリスクを軽減できないのではないか。

本報告では、議論の対象を広義の資本主義（＝世界システム）と設定し、それがいま抱えるリスクについて考察を進めてみたい。社会や組織の境界が融解しつつある現在、各要素を連関させる力をもつのは、資本主義しかないと考えるからである。

<市場>

資本主義は、投資によって利潤を得る経済であるから、搾取を前提にし、社会の分断を誘発する。このことは社会主義から終始批判されてきた。しかし、物質主義的である反面、知識や情報による交換の仕組みを不可欠の要素とし、様々な階級やマイノリティを包摂することで市場を革新・成長させる水平的で多元的システムでもあり、さらに、資本主義は、その歴史の最初から国家や社会の中にとどまらず、グローバリゼーションを指向している。それによって、資本主義は成長の限界に突き当たることを引き延ばし、階級対立の深刻化を回避してきた。

<国家>

複雑化した市場を制御すべく現れたのがテクノクラートを中心とする国家（政府）である。それは議会制民主主義における国家であれ、党を中軸とする社会主義国家であれ、市場からの独立性が高い組織である点で共通する。ここに「支配階級による国家」とは異なる大衆福祉国家が生まれる。

新しい国家像は、家族・教育・福祉、あるいは消費やメディアの領域にまで包括的な

規制をおよぼし、再配分によって正当性を調達した。他方、その批判勢力は、まず権力の過剰や集中を批判し、その政策の有効性や効率性に疑問を投げかけ、「小さな政府」や「官から民へ」、市場・企業や地域の活性化を唱えた。しかしそこから様々な陥穽が生じた。第一に、企業や地域に生活の重心が移ることは、個人や弱者の最終的な庇護者でもあった国家の弱体化でもあり、そこで個人は新たな拠り所を模索せねばならない。第二に、国家から市場へ重心が移行しようとも、社会全体のパイは変わらないか、経済のグローバル化が進むことによってむしろ減少し、生活水準の低下は免れえない。

#### <宗教・民族>

資本主義における搾取は、世界経済の中心と周辺の地域間における人と資源の移動にともなう不平等、すなわち南北問題として現れる。そこで、ナショナリズムを基調に、従属国側からの反植民地主義の闘争が生まれ、第三世界に民族主義的な社会主義国家が多く誕生することになる。その多くは軍事政権によって欧米社会に敵対的なスタンスを取りつつ、国内の再配分に大きな影響力を発揮した。

しかし、彼らもまたグローバル資本主義と無関係でいることはできず、先進国の介入を受け、あるいは同じ社会主義圏や同盟国間の力関係の中で、安定した支配を維持することもむずかしかった。とりわけ、政治と経済のあいだの癒着を墮落（世俗化）と批判する宗教的原理主義がイスラム世界を中心に広がることになった。（キリスト教圏でも原理主義は活発化している。）

#### <ネットワーク>

現在の資本主義にとっての最大の課題は、政治体制の違いや宗教の違いを乗り越えて、新たなネットワークを構築することではないだろうか。東日本大震災以降に発生した、グローバルな資本主義にとって最大の問題は、中国や韓国と日本の間のネットワークが、領土問題や歴史問題によって大きく毀損されたことである。

その打開策の一つとして、様々な領域に「特区」的空間をつくっていくことが考えられる。政府の規制から自由になることによって、システムの要素間の連関を取り戻していくことだろう。それは、文化や趣味を共有する人々の都市空間でもいいし、サイバー空間でもよく、その中で互酬的關係を築くことができる。

近代国家の成立以前、資本主義が発生する過程において、都市においてはさまざまな交換の発達が重要な役割を果たしたことを考えると、現代の特区空間でナショナリズムや原理主義を回避しつつ、新たな「社会主義」や、個人とシステムが共存可能な方途を模索する実験的空間を実現できるかもしれない。